特別寄稿

米「WRAPオリンピック」で準優勝

㈱デザインラボ 代表取締役 苅谷伊

サインと印刷機材を展示する「NMB SHOW2019」が、今年8月15日から17日まで、米国のカルフォルニアコンベンションセンターで開催されました。

米国各地で開催されるこの展示会は、マーキングフィルムの中でも、特にラッピングなどに焦点を当てたイベント「WRAPSCON」が行われています。

このイベントには、3MやHEXIS、ORAFOL、KPMF、MIMAKI、OKI、ROLAND、MUTHO、TECK WRAP、WRAP INSTITUTE、YELLOTOOLS（順不同）など、全米で使用されている大手メーカーが出展していました。

「WRAPSCON」の中で、今年も『WRAPS OLYMPICS』というラッピングコンテストが開催されました。

昨年はカナダ在住の日本人・長谷川景一さん（サイン製作会社・C17メディア勤務）と私が、チーム「SAMURAI」と称して出場し、見事に優勝した大会です。

今年は、ブルガリア人のイヴァン・ベボ氏から〝タッグを組みたい〟と以前からオファーがありましたので、チーム「ブルガリアン 忍者」で出場しました。

ベボ氏はまだ26歳、ラッピング歴は5年なのですが、スキルは高く、17年の「HEXISバトル」ワールドチャンピオン、18年の「ワールドラップマスターズ」世界チャンピオンという世界大会2冠に輝く、世界トップクラスのラッパーです。

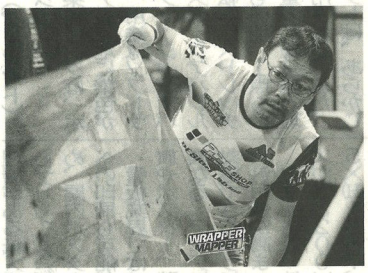
◇

ラッピングコンテストは、全米と世界各所から2人1組の合計31チーム（62人）が出場。上位勝ち残り方式で行われ、3日間にわたって午前、午後の2試合ずつ、計6回の競技種目で実施しました。

この大会の競技内容は、サイン製作会社が日常行う様々な「貼り付け」業務が取り入れられています。制限時間は短く、課題を完成できないチームも多数出ます。また、いくら早く仕上げてもシワや埃、めくれ、気泡、不正確な位置は全て減点対象となり、審査基準も厳しく設定されているのが特徴です。

今年はラッピング世界戦2冠のベボ氏と出場していましたので、負けるわけにはいかないという強い気持ちを持って臨みました。

1日目午前の1回戦はHEXIS社のフォージッドカーボンフィルムを一枚貼りにてスケートボードの板面に5分間で、キレイに早く貼るという課題でした。



カーラッピングコンテスト競技中のチーム「ブルガリアン 忍者」

午後の2回戦は、車両に取付いたコルベットのドアミラーにKPMF社のカーフィルムのラッピングと、ORAFOL社の壁面用インクジェットメディアをレンガ壁にウォールラッピングする2つの競技を15分で貼りあげるものでした。1日目で、半分の16チームに絞られました。

2日目午前の3回戦はコルベットのフロントフェンダーにTECK WRAP社のカレンダーフィルムを、カッターを使わずにナイフレスのみでラッピングすることと、商用車の窓が無いスライドドアに3M社のインクジェットメディアを20分で貼る課題です。

ベスト8を絞る午後の4回戦は、協賛企業から与えられたフィルムを自由に使い、ボーリングのピンと玉を1時間でフリーデザインにラッピングするものでした。この競技は3次曲面の立体物にシワや気泡なく貼ることも大切ですが、即興のデザインも採点の重要な要素となっています。この課題を我々のチームは突破し、4チームが残るセミファイナルに進出しました。

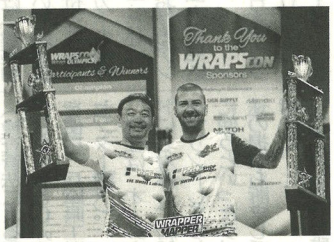
最終日の午前はセミファイナルです。車両片面全てを3M社のインクジェットメディアを使用し、1時間でフルラッピングするものでした。この競技は北米のラッパー達の方が経験も多く、ラッピングスピードも早く、毎年苦戦するのですが、今年はベボ氏とタッグを組んだこともあり、スピードラップを克服、4チーム中で完成できたのは我々のチームだけ。チーム「ブルガリアン忍者」は決勝戦に進みました。

そして運命のファイナルは、協賛企業の様々なフィルムを使い、車両片側全てを即興でデザインをしながら、1時間で仕上げる「クリエイティブカーラッピング」という競技です。昨年同様、私はデザインとナイフレスに自信がありましたので、ベボ氏には私がナイフレスでデザインを作った部分に、何色を貼るかを指示してラッピングに注力してもらい、時間内にほぼイメージの90%を完成することができました。

結果、今年はわずか7ポイント差で準優勝に終わりました。ベボ氏は世界大会3冠、私は大会2連覇を逃しましたが、ともにアウェイという環境下で全力を尽くし、持てる力をすべて出しきったので後悔はありません。

11月に名古屋でラッピング大会

このようなラッピング競技は現在、欧米をはじめ、世界各地で行われており、同様の競技大会に出場するのは、これで11回目です。



準優勝トロフィーを掲げる筆者（左）、デボ氏（右）

競技課題をこなすには、日頃仕事での意識と段取りを常に考えて臨まないと、競技に出場しても制限時間内に課題を終了できません。また、日頃の作業での注意点や、後輩へ指導する際、気をつけるべきことも見えてきました。

そして競技に参加して気がついたのは、上位に入賞すると、その後の注目度から、より一層同業者の見本となる施工をしなければならないことです。

いま、日本国内でも同じような競技を実施できないものかと、私が会長を務めている（一社）日本カーラッピング協会では、ラッピングコンテスト「ワールドラッピングマスターズ」を11月22日㈮から24日㈰まで、名古屋モーターショー内で開催することにしました。

この催しは、世界大会に合わせ、世界基準の競技内容と審査で行う日本で初めての大会となります。優勝者には、来年3月にスペインで開催されます世界大会に招待する副賞を用意しています。参加を希望する方は協会まで気軽に連絡を下さい。また、参加しなくても会場に足を運べば、国内トップクラスの技術を目の前で見ることができる絶好の機会です。

このコンテストが、若手の職人育成と技術の向上に役立ち、そしてサイン業界で頑張る方々の地位向上はもちろん、業界の人材流入につながれば大変嬉しく思っています。